

1. 庄内温泉筑豊ハイツについて

①現状

- 一 代替施設として考えられる施設（案）をもとに、その可能性について、民間事業者  
にヒアリング調査中

施設	内容	課題等
管理施設	テニスコート管理、会議・研修室、 テニス大会選手サロン等	・既に県の管理棟がある
合宿等 宿泊施設	筑豊緑地一帯の周辺環境と現筑 豊ハイツの利用状況を活かした 施設	・市外からの利用者が多くを占める 施設への投資の是非 ・将来的な利用者増が見込めるか
民活施設	レストラン、その他集客施設	・手を挙げる事業者がいるか ・民間事業者にとって魅力があるか

- 一 福岡県飯塚県土整備事務所（公園街路課）に筑豊緑地との運営面での連携及び新しい施設整備の可能性について相談

②民間事業者の意見

- 一 周辺人口として2km圏内に4万人程度が望ましい。（現状は約3,000人）
- 一 収益事業の見込みが不透明のため、躊躇する。
- 一 福岡県の施設と一緒に運営出来るのであれば魅力を感じるが、飯塚市の施設単独では厳しい。
- 一 事業手法としては、従来どおりの行政主導の事業手法（従来発注型）、民間事業者の資金とノウハウを活用する事業手法（PPP/PFI）が考えられ、それぞれ次ぎのような特徴があるが、筑豊ハイツについては、PPPによる事業が適していると思える。  
しかしながら、収益事業の見込みが不透明な状況にあっては、市としての支援体制が見えてこなければ厳しい。

事業手法	概要
従来発注型	事業の初期段階に費用が掛かるとともに、民間事業者のアイデアや運営を期待出来ないため、事業の将来性が不透明である。
PFI事業 (PFI法の適用)	支払いの平準化が図れるが、PFI法に則るため、事務負担が大きく事業化スピードも遅くなる。また、導入可能性調査等費用負担を伴う必須なものもある。また、事業規模（投資金額）としては概ね15億円以上が望ましい。
PPP事業 (PFI法の適用がない)	国が推奨するPFI法によるPFI事業が思うように進展しないことから、国においては民間資金とノウハウを活用する当該事業手法を加速化するために、PFIに柔軟性を加味し

	<p>た事業が PPP であり、事業内容としては PFI に準ずるが法に則らないため、事務負担の軽減と事業化のスピードアップが図れる。</p> <p>事業規模（投資金額）としては、概ね 15 億円未満が対象となる。</p>
--	---

### ③福岡県飯塚県土事務所の見解

- － 運営面での連携については、都市公園としての制約もあるので、それに沿ったところでの連携のあり方を検討することになるが、まずは市としての具体的な要望等を示して欲しい。
- － 新しい施設整備については、具体的な要望があった上で本庁にて検討することになるが、非常に厳しいと思う。

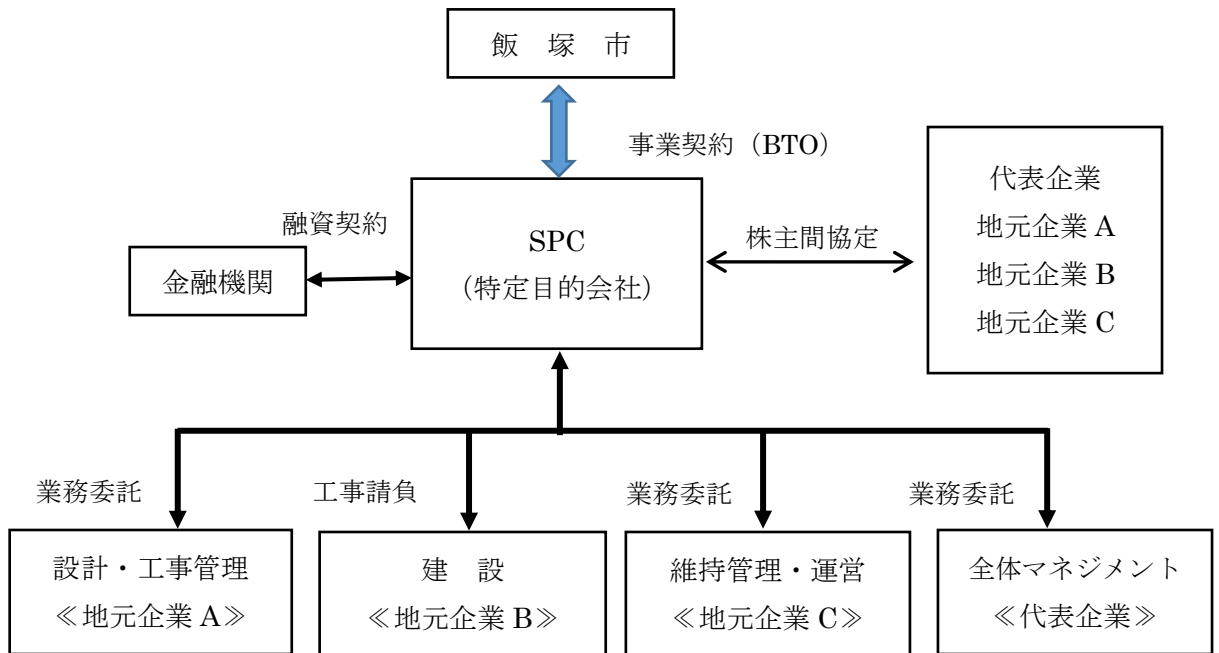
### ④課題

- － 市単独での代替施設の整備（管理施設・合宿等宿泊施設）の場合、収支が黒字となる料金設定は難しく、事業費負担が大きくなる。
- － 民間事業者の資金とノウハウを活用した施設（その他関連施設）を併設出来れば、事業費負担は軽減出来、集客も期待出来るが、民間事業者に魅力のある条件でなければ興味を示さない。

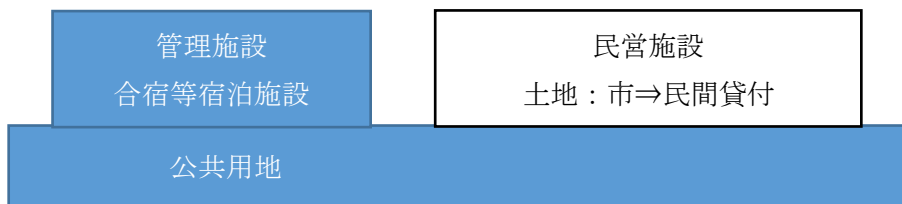
### ⑤今後について

- － 福岡県の施設（筑豊緑地）との運営面での連携の可能性について引き続き検討する。
- － 合宿等宿泊施設の有効活用に繋がるような筑豊緑地の施設整備を検討し、福岡県による協力について相談する。
- － 現筑豊ハイツに代わる代替施設整備の可能性について、民間事業者からの具体的な条件提示を含めて、引き続きヒアリングを行う。

<事業イメージ>



<BTO 方式での運営イメージ>



- ①行政が公共施設として必要と考える施設（管理施設・合宿等宿泊施設）と、民間事業者として付帯施設して整備することで収益が見込める施設（民営施設）を民間事業者の資金とノウハウを活用して整備する。
- ②整備後は、公共施設（管理施設・合宿等宿泊施設）は、行政に所有権移転する。
- ③行政は、公共施設に係る建設費を一定の事業期間内（例：20年間）に分割で負担する。
- ④民間事業者は、当該事業全体の運営を行う。  
 ※この時に、現在ヒアリング中の民間事業者にとっては、「民営施設での収益の見込みが立たない」、「管理施設及び合宿施設の収支も赤字が考えられる。」という判断をしており、難色を示しているのが実情である。⇒（市としての財政負担をどうするのか？）
- ⑤一定の事業期間終了後は、「現状のまま」若しくは「更地」にして返還する。

## 2. 飯塚市地方卸売市場について

### ①現状

- － 新しい卸売市場に係る基本的な考え方について市場関係者と協議中。
- － 平成27年12月22日に JA 福岡嘉穂から提案のあった「道の駅構想」と、卸売市場関係者の考える「場外市場」との連携の可能性について、平成28年3月22日に意見交換会を実施。(今後も継続)
- － 個別に市場関係者との意見交換を実施中。

### ②課題

- － 新しい卸売市場の基本構想、規模等。
- － 卸売市場関係者が考える「場外市場」の実現の可能性、基本構想、運営方法等。
- － 新しい卸売市場の整備場所。

### ③今後について

- － 5月～8月にかけて卸売市場関係者が考える「場外市場」の可能性について、一定の方向性を決定する。
- － JA 福岡嘉穂の「道の駅構想」との連携の可能性についても継続して協議を行う。
- － 6月議会に、新しい卸売市場の基本構想、規模等について検討するための「検討委員会設置」及び「基本構想策定委託業務」に係る関連議案及び関連補正予算を上程。
- － 7月～8月にかけてコンサル委託業者選定のためのプロポーザル実施。
- － 9月～平成29年2月「新卸売市場基本構想策定」



# 地域医療連携イノベーション創出事業

## 背景

飯塚市では、地域に集積する大学・研究機関・医療機関を活かして地域経済の活性化を図るため、本市、飯塚病院、九州工業大学、(公財)飯塚研究開発機構の4者による医工学連携協定(平成26年5月)を締結し、各機関が連携した研究開発プロジェクト創出や地域の中小企業の医療分野への新規参入等に取り組んでいるところ。

一方、中小企業や地域企業においては、制度や費用面に加え、医療現場とのコミュニケーションを図る場が少なく、新規開発に当たっては単独の医師や研究者との共同研究に寄らざるを得ない面があり、開発製品が必ずしも市場ニーズとマッチしないといった課題がみられる。こうした課題を解決するため、米国や欧州の医療関連開発拠点においては、医療現場に開発企業が入り、徹底した現場観察に基づき研究開発を実施する制度(クリニカルイマージョン)の導入により、数多くのイノベーションを創出(14年間で40社のベンチャー企業創出、400件以上の特許出願)。国内では、東北大、東京大、大阪大が先端医療分野を中心によく取組みの緒についているところ。

本市の地方創生施策では、①産業振興施策の重点プロジェクトである「医工学連携を通じた新産業創出」、②まちづくり施策の中核である「健康都市いづかの実現」を基本施策の1つとして位置付けており、地域医療現場の課題解決に資する研究開発の促進を通じた地域医療全体の充実・サービス向上及び医療費の抑制に繋がる相乗効果が見込める施策による加速化が必要。

## 事業概要

地域に集積する病院による連携体を形成し、医療現場に地域内外から企業、学生、研究者を受け入れる体制を国内では初めて構築し、クリニカルイマージョン実施による地域の医療現場ニーズに即した医療イノベーション創出と人材育成を進める。

具体的には、地域医療の連携体については、予防期から急性期、慢性期、在宅(通院)期まで多様な医療現場ニーズに基づく、研究開発プロジェクトを創出するため、複数の医療機関の参加を図る。

受入企業・大学・学生については、ものづくり、IT、サービスなど多種多様な産業分野や研究分野から受入れを行い、新しい医療機器から医療現場に係るIT活用サービス等まで様々な研究開発プロジェクトを創出する。

また、福岡県(ふくおか医療福祉関連機器開発・実証ネットワーク)、九州経済産業局(九州ヘルスケア産業推進協議会)等と連携し、地域外からの参加促進を図り、飯塚の医工学連携の取組みを全国へ発信する。

さらに、地域に立地する大学や研究機関等と連携し、医療分野に活用可能な研究シーズの発掘や将来の人材育成を図る。

## 事業計画

「上半期」

- ◆事業実施にかかる病院内の体制整備
  - ・先進地域の専門家招聘
  - ・先進的取り組み事例視察・研究
  - ・事業実施プログラムの作成
  - ・事業実施のための既施設一部改修・物品等の整備
- ◆企業・関係機関等への事業広報(HP作成・展示会出展)

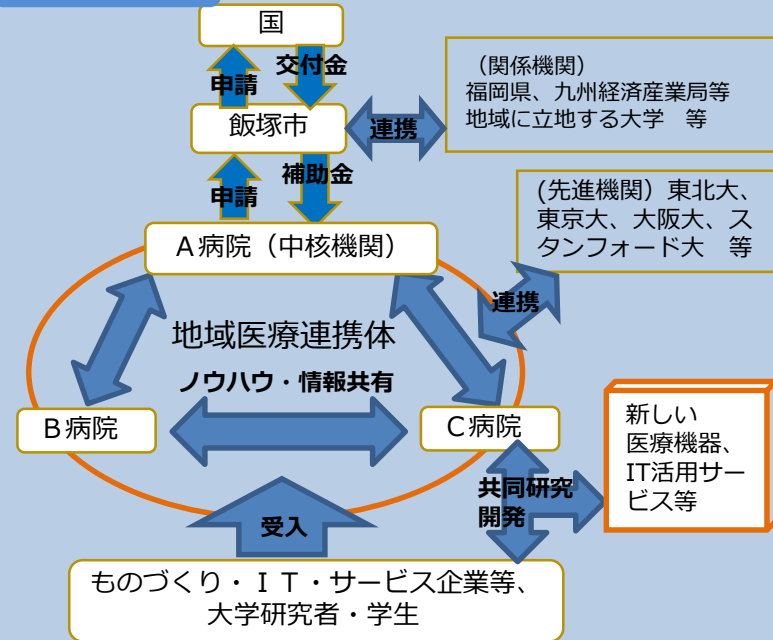
「下半期」

- ◆事業実施(企業等の受入開始)
  - ・専門家による現場職員、参加企業への指導・助言
- ◆事業マニュアル作成(病院向け・企業向け)

「下半期」

- ◆受入企業等の負担金により自立化

## スキーム図



# 大学生地域参画のための市内3大学の意識調査

## 大学教員へのヒアリング総括

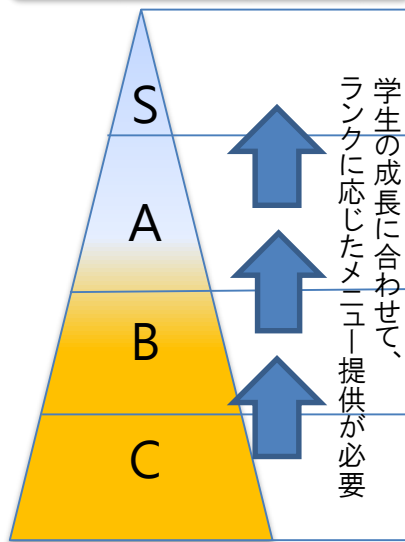
### 《最近の学生の傾向》

- ・意識が低く、内側しか見ていない学生が多い。
- ・お金と安定を求める学生が多く、就職も名前で企業を選ぶ。市内企業を知る機会がない。
- ・就職は地元(出身地)志向。ただし学科によっては就職地が限られるものもある。
- ・留学にも関心のない学生が多い。
- ・勉強に対する意識は低い、趣味に対する執着心はすごい。
- ・就職活動を始める時期になってはじめて何かやらなければいけないと考えだす学生が多い。
- ・一度理解すると早い。
- ・一部に意欲の高い学生もあり、ピラミッド構造になっている。

### 《学校でできないこと、学生に期待すること》

- ・学校の講義等では実践ができない。成果物を出すことが重要であるが、学校ではそこまでやらない。
  - ・1コマ90分の講義では限界があるが、アルバイト等もあり、時間外まで拘束することはできない。
  - ・地域と関わることは学生にとって刺激的である。大学には研究者しかいないので、もっと社会人と関わってほしい。
  - ・他大学の学生と交流することで、価値観の違いを実感してほしい。
- ### 《市や地域に期待すること》
- ・起業しなくともビジネスマインドは重要であるので、学生にそれを体感させてほしい。
  - ・やる気のある学生を推薦することはできるが、それだけでは波及効果は限定的である。
  - ・域外で就職しても、飯塚に愛着を持たばふるさと納税が期待できるのでは。

## 学生のピラミッド構造



学生の意識レベル	事業のねらい	事業メニュー(案)	目標値
目標がはっきりしており、何をすべきか分かっている。起業志向もあり。	飯塚市での起業や就職を支援する。	インキュベーション施設提供、長期インターンシップ、創業相談等 ※創業、市内就職後も補助金やイベント等による手厚いサポートを実施	市内起業数 1件 市内就業者数 50人
良い企業に就職するために学外での活動に積極的に取り組みたい。	大学で学んだ高い技術や能力を地域課題解決に活かす。	スマートフォンアプリコンテスト ソレノイドコンテスト、 地域課題解決プロジェクト、 eTNでのプレゼンテーション等	スマートフォンアプリコンテスト エントリー件数 20件 ソレノイドコンテスト出展数 5件 チャレンジプロジェクト創出数 1件 eTN発表学生数 延べ30人
何かやらなければならないと思っているが、何をすればよいか分からない。	学生と地域企業の交流を促進し、地域企業への関心を高める。	地域課題をテーマとしたビジネスワークショップ、 市内での短期インターンシップ等	参加モチベーション向上のためのポイント制度 参加学生数 延べ150人
学外に対する関心が薄く、単位さえ確保すればよいと思っている。	イベント等への参画を促進し、地域への関心を高める。	ニーズ会、経営者による講座、 ビジネスマインド講座、地域魅力 発見事業(合同会社説明会)、e- ZUKA Tech Night等	参加学生数 延べ1,200人

# 大学生地域参画促進事業(愛称:e-ZUKA Challenge Project)【案】

大学生の地域参画を図るため、年度初めに大学生自らが「e-ZUKAチャレンジ宣言(仮称)」をし、市や関係団体が実施するイベント等に参加した場合にポイントを付与して、その年間獲得ポイント数に応じて商品等と交換する。地域と強い関わりを持つようとする学生を評価すべく、地域貢献の度合いが高いアクションほど付与ポイント数を大きくする。

また、毎月のポイント獲得者の中から抽選を行って景品を贈るなどし、全体的な参画者の増加も図っていく。加えて、年間獲得ポイントの上位者について年度末に表彰を行うものとする。

## ポイント付与の内容(案)

No	ランク	事業	アクション	ポイント
1	C	タカハイノベーションパーク	利用	50
2	C	e-ZUKA Tech Studio	利用	50
3	C	ニーズ会	参加	100
4	C	地域魅力発見事業 (合同会社説明会)	参加	100
5	C	地域企業経営者によるビジネスマインド講座	参加	100
6	C	e-ZUKA Tech Night	参加	100
7	B	ビジネスワークショップ	参加	500
8	B	ビジネスワークショップ	2位評価グループ	1,000
9	B	ビジネスワークショップ	1位評価グループ	3,000
10	A	スマートフォンアプリコンテスト	出品	3,000
11	A	ソレノイドコンテスト	出品	3,000
12	A	地域課題解決プロジェクト	参加	2,000
13	A	e-ZUKA Tech Night	発表	2,000

※他の地域事業も対象事業に順次追加していく。

新たな成長産業へ積極的にアプローチを図るため、スマホアプリ開発を対象としたコンテストを実施。アプリ開発を行う**エンジニア・学生・IT企業等との交流の場**を創出し、優れた技術者の発掘と育成、自由でクリエイティブなアプリ開発の推進、更には**技術者が集まるe-ZUKAを全国へ発信**。

## 【スケジュール】

- ・エントリー：平成28年5月～7月
- ・企画書提出： // 8月
- ・1次審査： // 9月
- ・最終プレゼン： // 11月下旬  
(九工大学園祭に併せ開催)

## 【参考】

2012年度から開始し、本年が5回目の開催。  
2015年エントリー数：95件（前年度+27件）  
// 年グランプリ：九工大学生チーム受賞

【協賛企業予定】前年度15社→21社見込



## 【出題テーマ】各企業テーマ設定→大括り化

- 【テーマ1】子育て・学習・趣味
- 【テーマ2】生活（仕事）の利便性向上
- 【テーマ3】健康・医療・介護
- 【先端分野部門】IoT、ウェアブル、ロボット、VR、フィンテックなど先端分野を活用した作品については、上記テーマと重複エントリー

## 【表彰】

グランプリ30万円、オーディエンス賞  
テーマ1～3への各協賛企業賞  
先端分野部門賞、優秀技術賞【新規】



新たな成長産業へ積極的にアプローチを図るため、スマホアプリ開発を対象としたコンテストを実施。アプリ開発を行う**エンジニア・学生・IT企業等との交流の場**を創出し、優れた技術者の発掘と育成、自由でクリエイティブなアプリ開発の推進、更には**技術者が集まるe-ZUKAを全国へ発信**。

## 【スケジュール】

- ・エントリー：平成28年5月～7月
- ・企画書提出： // 8月
- ・1次審査： // 9月
- ・最終プレゼン： // 11月下旬  
(九工大学園祭に併せ開催)

## 【参考】

2012年度から開始し、本年が5回目の開催。  
2015年エントリー数：95件（前年度+27件）  
// 年グランプリ：九工大学生チーム受賞

【協賛企業予定】前年度15社→21社見込



## 【出題テーマ】各企業テーマ設定→大括り化

- 【テーマ1】子育て・学習・趣味
- 【テーマ2】生活（仕事）の利便性向上
- 【テーマ3】健康・医療・介護
- 【先端分野部門】IoT、ウェアブル、ロボット、VR、フィンテックなど先端分野を活用した作品については、上記テーマと重複エントリー

## 【表彰】

グランプリ30万円、オーディエンス賞  
テーマ1～3への各協賛企業賞  
先端分野部門賞、優秀技術賞【新規】

# 地域企業魅力発見事業【継続事業】

飯塚市内の3大学の学生と地域企業の出会い・交流の場を創出することによって、学生と企業がお互いの良さを再認識し、就職・採用活動につなげることを目的に、就職情報誌の発行から、合同会社説明会の開催、マッチングまで行うことで、地域の雇用創出を図る。

○就職情報誌の発行【発行数4000部→8000部】

地域企業の魅力や合同会社説明会の開催案内等を掲載した冊子を4000部発行し、市内外の大学等へ配布

○合同会社説明会【開催数1回→複数回】

就職活動支援セミナー、個別会社説明会など

○マッチング事業【合説開催後→年間を通じ実施】

説明会参加者・企業及び未参加者・企業も含め、就職及び採用支援を実施。

○企業負担金の徴収【新規】

広報誌掲載2万円、説明会参加1万円

【H27年度合同会社説明会の開催実績】

- 参加者：企業等 36社（前年度比+6社）  
学生等136人（前年度比+30人）
- 面談数：424件（前年度比+99件）



# 平成26・27年度売上額及び入場者比較表

(単位:円、人、%)

月	売上額						入場者数			
	27年度実績 A		26年度実績 B		26年度との比較		27年度実績 D	26年度実績 E	26年度との比較	
	増減額 A-B=C	比率 C/B	増減数 D-E=F	比率 F/E						
4	345,141,500	日数 4	766,674,900	日数 7	△ 421,533,400	△ 55.0	9,414	17,319	△ 7,905	△ 45.6
5	880,390,500	9	707,170,200	5	173,220,300	24.5	24,233	13,923	10,310	74.1
6	<sup>GII</sup> 1,055,264,200	8	553,026,100	7	502,238,100	90.8	19,495	17,146	2,349	13.7
7	942,036,200	9	<sup>GII</sup> 1,397,440,200	12	△ 455,404,000	△ 32.6	20,867	26,208	△ 5,341	△ 20.4
8	<sup>GI</sup> 1,607,875,100	12	959,057,800	10	648,817,300	67.7	33,907	21,824	12,083	55.4
9	395,763,100	4	<sup>GI</sup> 1,191,548,200	8	△ 795,785,100	△ 66.8	6,829	26,738	△ 19,909	△ 74.5
10	666,297,700	7	712,908,500	6	△ 46,610,800	△ 6.5	16,465	17,228	△ 763	△ 4.4
11	452,154,600	6	<sup>SG</sup> 1,559,667,300	7	△ 1,107,512,700	△ 71.0	5,687	27,167	△ 21,480	△ 79.1
12	683,165,100	8	267,843,100	4	415,322,000	155.1	16,781	8,619	8,162	94.7
1	<sup>GI</sup> 1,315,598,000	7	<sup>GI</sup> 1,157,840,600	9	157,757,400	13.6	19,819	27,192	△ 7,373	△ 27.1
2	<sup>SG</sup> 1,982,228,200	9	594,148,700	5	1,388,079,500	233.6	28,333	14,595	13,738	94.1
3	418,057,400	4	655,530,000	7	△ 237,472,600	△ 36.2	5,357	18,310	△ 12,953	△ 70.7
合計	10,743,971,600	87	10,522,855,600	87	221,116,000	2.1	207,187	236,269	△ 29,082	△ 12.3
1日平均	123,493,900		120,952,400		2,541,500	2.1	2,466	2,716	△ 250	△ 9.2

(※ ○ 一日平均売上額 … 下2桁四捨五入 ○ % … 小数点以下第2位四捨五入)

※開催日数にはミッドナイトの日数3日を含む。(ただし、本場入場者数1日平均を算出する際には含まず。)

※平成28年1月開催は、降雪のため2日中止

## 専用場外発売所の開設について

「オートレース船橋」の概要について

- ①名 称 「オートレース船橋」
- ②場 所 千葉県船橋市若松1丁目2番25号
- ③設置者 株式会社よみうりランド
- ④管理施行者 伊勢崎市
- ⑤座席数 332席（一般席216席、有料席44席、屋外観覧席72席）
- ⑥窓口数 32窓（自動機30窓、有人窓口2窓）
- ⑦施設内容 投票所、一般席、有料席、案内所、売店等
- ⑧発売日数 年間340日程度を予定
- ⑨オープン日 平成28年4月8日

※全ての施設及び設備は競輪と共用



## 中心市街地活性化事業進捗状況表

事業名	27年度の実施内容	28年度の実施予定
<p>中心市街地再興戦略事業</p> <p>タウンマネージャー設置事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日より第2期タウンマネージャーを公募開始</li> <li>・4月27日 選定委員会を開催し、候補者決定</li> <li>・5月28日 経済産業省の中心市街地再興戦略補助金に申請</li> <li>・7月14日付けで設置(飯塚商工会議所内)し、以下の業務を行う。                      商業活性化事業の企画立案                      各種団体等との連携推進                      中心市街地活性化に関する情報収集及び情報発信                      ソフト事業等のサポート及び協働体制、実施体制の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度から継続して第2期タウンマネージャーが就任。</li> <li>・商業活性化事業の企画立案</li> <li>・各種団体等との連携推進及び次世代を担う人材の育成</li> <li>・中心市街地活性化に関する情報収集及び情報発信</li> <li>・ソフト事業等のサポート及び協働体制、実施体制の構築</li> <li>・ニーズに即した魅力ある店舗の誘致並びに安定した営業継続店舗の創出</li> </ul>
<p>社会資本整備総合交付金</p> <p>商業活性化支援事業</p>	<p><b>【健康空間創出事業(実施主体:飯塚商工会議所)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日 街なかサロン(街なか交流・健康ひろばの運営)開始(～3月31日)</li> <li>・7月7日～8月11日 ママリフレッシュ運動(計6回、延べ参加者数47人)</li> <li>・9月24日～12月15日 メタボ予防教室(計12回、延べ参加者数151人)</li> <li>・2月2日 ママリフレッシュ運動開始(～3月8日 計6回)</li> <li>・2月20日 スロージョギング大会(延べ参加者数22人)</li> <li>・2月20日 ファミリースタンプラリー開催(延べ参加者数310人)</li> </ul> <p><b>【新規創業者等支援事業(実施主体:(株)まちづくり飯塚)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月17日～12月4日 商店街での創業者募集</li> <li>・10月29日、11月26日、12月11日、1月31日、2月29日 起業塾開催</li> <li>・1月14日 改修補助に係る審査会(申請者3者、補助決定者0者)</li> </ul> <p><b>【飯塚本町コミュニティビルオープン記念事業 (実施主体:飯塚市商店街連合会)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月1日、4日 「飯塚本町コミュニティビルアフレール」オープニングイベント開催</li> </ul>	<p>・中心市街地の商業活性化を総合的・一体的に推進するためには、飯塚市中心市街地活性化協議会との連携が必要不可欠であるため、協議会で協議・決定された活性化事業に対し補助を行い、イベントの開催、空き店舗対策事業などを一体的に推進</p> <p>(予定内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街なか交流・健康ひろば運営</li> <li>・街なか子育てひろば開所記念イベントと併せた商店街イベント事業</li> <li>・空き店舗調査、空き店舗対策事業</li> <li>・起業塾(ワークショップ)の開催</li> </ul>
<p>戦略的逸品店舗誘致事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月29日 飯塚市戦略的逸品店舗誘致部会の開催</li> <li>・8月20日 1社出店(出店場所:吉原町、業態:飲食店(居酒屋))</li> <li>・逸品店舗交渉企業30社中(3月31日現在)                      出店1社 出店検討中5社 社内協議中9社                      出店意思なし6社 回答なし9社</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的逸品店舗誘致部会の開催</li> <li>・戦略的逸品店舗誘致企業への出店交渉</li> <li>・起業支援サイト空き店舗情報管理</li> </ul>
<p>街なか循環バス運行事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日街なか循環バス出発式を行い、1日当たり3ルート9便で運行開始</li> <li>・平成27年度 利用者数 11,859人 運賃収入 896,400円</li> </ul>	<p>今年度までの実証運行中であり、利用者数の推移を見ながら、次年度以降の運用について検討を行う。</p>

筑穂地区（桑曲線）スクールバスにおける一般市民との混乗運行について

現在、専用スクールバスとして運行している筑穂地区（桑曲線）について、一般市民が児童・生徒と一緒に乗車できる定時定路線型運行を行う。

1. 運行形態

定時定路線型運行

一般混乗は「平日運行」の1番・2番及び、「夏季・冬季・春季休業中運行」の1番のみとする。

2. 運行ルート

別紙1「筑穂地区（桑曲線）スクールバス経路図」のとおり。

3. 運行ダイヤ

別紙2「筑穂地区（桑曲線）スクールバス運行時刻表」のとおり。

- ・学校開校日…平日ダイヤにて運行（朝2便）
- ・学校休業中…夏季・冬季・春季休業期間のうち、盆休み（8月13日～15日）及び年末年始（12月29日～1月3日）を除いた平日（朝1便）

4. 運賃

児童・生徒	無 料
一般乗客	200円
（障がい者割引）	100円
回数券（13枚綴）	1,000円

※一般乗客、回数券についてはコミュニティバスと同額

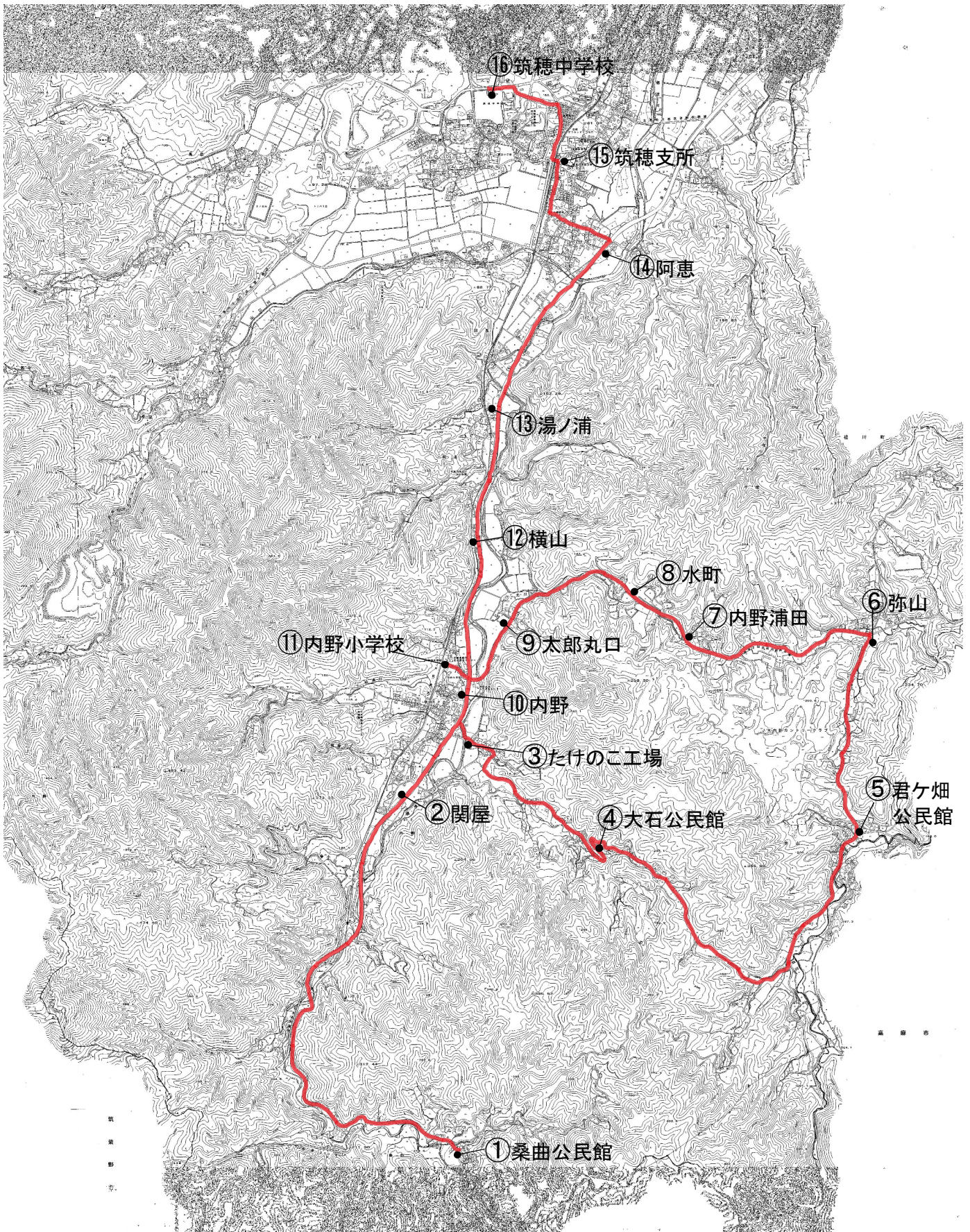
5. 運行開始日

平成28年7月中運行開始予定



# 筑穂地区(桑曲線)スクールバス経路図

別紙1





## 筑穂地区(桑曲線)スクールバス運行時刻表

別紙2

### 桑曲線時刻表(平日運行)

停車位置	1番	2番
① 桑曲公民館	7:50	
② 関屋	7:57	
③ たけのこ工場	↓	7:49
④ 大石公民館	↓	7:53
⑤ 君ヶ畑公民館	↓	7:58
⑥ 弥山	↓	8:01
⑦ 内野浦田	↓	8:03
⑧ 水町	↓	8:03
⑨ 太郎丸口	↓	8:05
⑩ 内野	7:58	↓
⑪ 内野小学校	↓	8:09
⑫ 横山	8:00	8:11
⑬ 湯ノ浦	8:02	8:13
⑭ 阿恵	8:03	8:14
⑮ 筑穂支所	8:05	8:16
⑯ 筑穂中学校	8:07	8:18

### 桑曲線時刻表(夏季・冬季・春季休業期間中運行)

停車位置	1番
① 桑曲公民館	7:52
② 関屋	7:59
③ たけのこ工場	8:01
④ 大石公民館	8:03
⑤ 君ヶ畑公民館	8:08
⑥ 弥山	8:11
⑦ 内野浦田	8:13
⑧ 水町	8:13
⑨ 太郎丸口	8:17
⑩ 内野	8:18
⑪ 内野小学校	↓
⑫ 横山	8:20
⑬ 湯ノ浦	8:22
⑭ 阿恵	8:23
⑮ 筑穂支所	8:25
⑯ 筑穂中学校	8:27

※8月13日から15日までと12月29日から1月3日までは運休

平成27年度コミュニティ交通利用状況について

経済建設委員会提出資料  
平成28年5月24日提出

【1】予約乗合タクシーについて

(1) 運行状況

① 使用車両台数

運行地区	運行地区								合計
	飯塚東	庄内	筑穂	鎮西	二瀬	幸袋	穎田・鯉田	穂波	8地区
使用車両台数	1		3	2	1	1	1	2	11台

② 運行日・運行時間

(A)年間運行日数 241日 (平日運行(土日祝日・8/13～15・年末年始(12/29～1/3)を除く))

(B)1日当たり運行時間 8時間 (8:00～17:00 (車両毎に昼の1時間休憩あり))

(2) 利用者登録数

① 市全体

(人)

	H26年度末	H27年4月	H27年5月	H27年6月	H27年7月	H27年8月	H27年9月	H27年10月	H27年11月	H27年12月	H28年1月	H28年2月	H28年3月	H27年度新規登録者数	合計	増加率
利用者登録数	8,689	80	66	71	65	38	56	40	37	17	56	39	93	658	9,347	7.6%

② 地区別状況

(人)

地区名	飯塚東	庄内	筑穂	鎮西	二瀬	幸袋	鯉田	穎田	穂波	飯塚・立岩・菰田	市外	通学用(鎮西中・八木山小)	合計
平成27年度合計	407	717	1,820	931	1,232	892	357	583	2,124	172	74	38	9,347
平成26年度合計	374	675	1,716	877	1,109	834	321	550	1,997	136	71	29	8,689
増減	33	42	104	54	123	58	36	33	127	36	3	9	658

(3) 利用者数

① 市全体

(人)

	H27年4月	H27年5月	H27年6月	H27年7月	H27年8月	H27年9月	H27年10月	H27年11月	H27年12月	H28年1月	H28年2月	H28年3月	H27年度合計	H26年度合計	増減	増加率
1か月間	3,586	3,207	4,089	4,027	3,479	3,598	3,872	3,419	3,540	2,765	3,463	3,746	42,791	42,721	70	0.2%
1日平均	170.8	178.2	185.9	183.0	183.1	189.4	184.4	179.9	186.3	145.5	173.2	170.3	177.6	177.3	0.3	0.2%
運行日数	21	18	22	22	19	19	21	19	19	19	20	22	241	241		

② 地区別状況

(人)

	飯塚東	庄内	筑穂	鎮西	二瀬	幸袋	鯉田	穎田	穂波	合計	運行日数
27年度合計	合計	843	2,772	10,896	6,799	5,852	3,004	1,049	2,026	9,550	42,791
	1日平均	3.5	11.5	45.2	28.2	24.3	12.5	4.4	8.4	39.6	177.6
26年度合計	624	2,568	11,074	7,356	5,876	2,784	270	2,631	9,538	42,721	241
増減	219	204	-178	-557	-24	220	779	-605	12	70	

## 【2】平成27年度コミュニティバスについて

### (1) 運行状況

路線名	運行地区	1日あたり運行便数	1日のべ停車バス停数	運行日
穎田・飯塚線	穎田・鯉田・幸袋・二瀬・鎮西・穂波・飯塚	6	77	平日運行 241日
庄内・飯塚線	庄内・飯塚東・菰田・穂波・飯塚	6	49	
筑穂・飯塚線	筑穂・穂波・飯塚	7	63	

### (2) 利用者数

#### ① 市全体(月次推移)

(人)

	H27年4月	H27年5月	H27年6月	H27年7月	H27年8月	H27年9月	H27年10月	H27年11月	H27年12月	H28年1月	H28年2月	H28年3月	H27年度 合計	H26年度 合計	増減	増加率
1か月間	1,564	1,470	1,847	1,904	1,608	1,801	2,005	1,662	1,890	1,431	1,811	1,870	20,863	20,160	703	3.5%
1日平均	74.5	81.7	84.0	86.5	84.6	94.8	95.5	87.5	99.5	75.3	90.6	85.0	86.6	83.7	2.9	3.5%
運行日数	21	18	22	22	19	19	21	19	19	19	20	22	241	241		

#### ② 路線別状況

(人)

路線名	穎田・飯塚線		庄内・飯塚線		筑穂・飯塚線		合計		運行日数
	合計	1日平均	合計	1日平均	合計	1日平均	合計	1日平均	
平成27年度合計	3,296	13.7	5,171	21.5	12,396	51.4	20,863	86.6	241
平成26年度合計	3,810	15.8	4,334	18.0	12,016	49.9	20,160	83.7	
増減	-514	-2.1	837	3.5	380	1.5	703	2.9	
増加率	-13.5%		19.3%		3.2%		3.5%		

### 【3】平成27年度街なか循環バスについて

#### (1) 運行状況

路線名	運行地区	1日あたり運行便数	1日のべ停車バス停数	運行日
街なか循環線	中心市街地	5	55	月～土曜日運行 291日
川島線	川島、片島、中心市街地	2	34	
菰田線	菰田、中心市街地	2	38	

#### (2) 利用者数

##### ①市全体(月次推移)

(人)

	H27年4月	H27年5月	H27年6月	H27年7月	H27年8月	H27年9月	H27年10月	H27年11月	H27年12月	H28年1月	H28年2月	H28年3月	H27年度 合計
1か月間	639	614	907	1,103	1,057	1,082	1,147	946	1,070	858	1,175	1,261	11,859
1日平均	25.6	26.7	34.9	42.4	46.0	47.0	44.1	41.1	46.5	37.3	49.0	48.5	40.8
運行日数	25	23	26	26	23	23	26	23	23	23	24	26	291

##### ②路線別状況

(人)

路線名	街なか循環線		川島線		菰田線		合計		運行日数
	合計	1日平均	合計	1日平均	合計	1日平均	合計	1日平均	
平成27年度合計	5,578	19.2	4,249	14.6	2,032	7.0	11,859	40.8	291